

令和8年度 年間指導計画

教科	数学	科目	数学Ⅰ	履修区分	必修	使用教科書	副教材等
添削指導回数	12	面接指導回数	4	単位認定試験	1	NHK高校講座 教科書DVD	

鹿児島県立高等学校 通信制課程

鹿児島県立高等学校 通信制課程
 鹿児島県立高等学校 通信制課程
 NHK高校講座 教科書DVD

学習の目標

数式的変形・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 数式・図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したし、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量についての論理的に考察し表現する力、図形関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの取らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程・結果を批判的に考察し判断したりする力を目指す。
 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導 提出期間に間に合うように提出する。
 面接指導 各期に開講する審考を確認し計画的に出席する。
 ※授業録 面接指導の出席を合わせ、①～④の計2時間となるように提出する。
 ※授業録による選免は原則2回限(6割減免)まで。
 単位認定試験 添削指導、面接指導(視聴録を含む)を全て修了後に受験。
 単位修得(認定)に当たっての基準
 評価方法(各単元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教科書ページ)	添削指導 No.	面接指導		視聴録 NHK高校講座 教科書DVD	単位認定 試験	観点別評価	
		開講番号	開講期			観点	評価規準
P.32-47 文字と式	1					知識・技能	指数法則や分配法則を用いたり、乗法公式を用いたりして式を展開することができる。因数分解の公式を利用して、式の因数分解をすることができる。文字の一部を1つの文字に置き換えて、多項式を展開、因数分解することができる。
P.48-57 実数	2	①	I・Ⅲ期	2.3.6.9	P.40-41 P.42-45 P.50-53 P.64-65	思考・判断・表現	乗法公式のつながりを考察することができる。乗法公式や因数分解の公式を関連させながら、式の1部を1つの文字に置き換え、見直しをもって展開、因数分解することを考察することができる。
P.58-66 方程式と不等式	3					主体的に学習に取り組む態度	多項式の乗法の計算方法を振り返って、工夫して式を展開しようとしている。
P.66-71 方程式と不等式	4					知識・技能	平方根の意味や性質を理解し、根号を含む式の計算や分母の有理化をすることができる。有限小数、循環小数について理解し、循環小数を記号を用いて表すことができる。
P.74-83 2次関数とそのグラフ	5	②	I・Ⅲ期	11.12.13 .16	P.68-69 P.70-71 P.78-81 P.82-85	思考・判断・表現	数を拡張した過程を考察することができる。簡単な無理数を含んだ式を多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりすることができる。
P.84-91 2次関数とそのグラフ	6					主体的に学習に取り組む態度	2つの自然数どうしの四則演算の法則について興味をもって考えようとしている。
P.92-101 2次関数の値の変化	7					知識・技能	等式の性質や方程式の解の意味を理解し、1次方程式を解くことができる。不等式の意味を理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができる。
P.104-125 三角比	8	③	Ⅱ期	22.23.25 .26	P.106-116 P.117 P.118-119	思考・判断・表現	身近な問題を解決することに1次方程式を活用することができる。1次方程式を解く方法を考察することができる。
P.114-127 三角比の応用	9					主体的に学習に取り組む態度	事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしている。
P.130-139 データの分析	10					知識・技能	不等式の性質や解の意味を理解し、等式や不等式を解くことができる。因数分解や解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。
P.140-147 データの分析	11	④	Ⅱ期	32.33.34 .35	P.132-139 P.150-153 P.154-157	思考・判断・表現	身近な問題を解決することに不等式を活用することができる。不等式の性質を等式の性質と対比して捉えることができる。
P.150-160 集合と論証	12					主体的に学習に取り組む態度	文字を含む数を数直線上に表す活動を通して、不等式の性質について考えようとしている。
						知識・技能	1次関数について理解し、そのグラフをかきことができる。2次関数について理解し、 $y=ax^2$ のグラフをかきことができる。
						思考・判断・表現	ともなって変化する2つの数量の関係について考察することができる。具体的な事象を数学的に捉え、2次式で表すことができる。
						主体的に学習に取り組む態度	事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論理に基づき判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
						知識・技能	2次関数のグラフを $y=ax^2$ のグラフを平行移動することでかきことができる。式を変形することによって2次関数のグラフをかきことができる。
						思考・判断・表現	2次関数の係数とそのグラフの形や位置の関係について、グラフをかきことで多面的に考察することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	2次関数の係数とそのグラフの形や位置の関係について関心をもち、考察した結果を2次関数のグラフをかきことに活用しようとしている。
						知識・技能	2次関数の最大値・最小値をグラフと関連づけて理解し、求めることができる。2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフとx軸の共有点を求めることができる。2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。
						思考・判断・表現	2次関数の最大値・最小値についてグラフを用いて考察することができる。2次関数のグラフとx軸の位置関係について、2次方程式の解に対応させて考察することができる。2次不等式の解について、2次関数のグラフを用いて考察することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	2次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に2次関数のグラフや最大値・最小値を活用しようとしている。2次不等式の解の考察に、2次関数のグラフとx軸の位置関係を活用しようとしている。
						知識・技能	相似な三角形の性質、三平方の定理を理解し、辺の長さを求めることができる。三角比の意味を理解し、その値を求めることができる。三角比の相互関係を用いて、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができる。
						思考・判断・表現	相似の考え方の用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。相似な三角形において、三角比が三角形の大きさに関係なく、ある角に依存していることを考察することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	日常の事象や社会の事象などの具体的な場面の問題を解くことにより、三角比の有用性を認識しようとしている。
						知識・技能	与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができる。正弦定理、余弦定理を理解し定理を利用して三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。座標を利用して0°から180°までの角の三角比を求めることができる。
						思考・判断・表現	座標平面上に直角三角形を見いだすことによって、角が鈍角の場合でも三角比の相互関係が成り立つことや180°-θの三角比について考察することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	三角形の辺や角の関係から、正弦定理について考察しようとしている。日常の事象や社会の事象の中に三角形で構成された空間図形を見だし、その空間図形の計量に三角比を活用しようとしている。
						知識・技能	データや階級、度数、階級値、度数分布表、ヒストグラム、相対度数の定義や意味を理解している。目的やデータに応じて度数分布表、ヒストグラムなどに表すことができる。データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し、代表値を求めることができる。
						思考・判断・表現	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	身近なデータを分析する過程を通して、統計的探究プロセスを意識した問題解決の活動について理解しようとしている。
						知識・技能	分散、標準偏差を理解し、それを求めることができる。相関関係について理解している。2つの数量の関係を散布図や相関係数を用いて表すことができる。
						思考・判断・表現	標準偏差を用いてデータの散らばり具合を考察することができる。相関関係を調べることで、複数の数量について、強い関係があるのほどとどれかを判断することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりしようとしている。
						知識・技能	集合の表し方や用語を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。命題の真偽を調べたり、偽である場合には反例を挙げたりすることができる。また、条件の否定を述べることができる。必要条件や十分条件の意味や記号について理解している。
						思考・判断・表現	集合をベン図で表すことで、集合とその要素との関係や、集合と集合の関係について考察することができる。集合の包含関係に関連付けて、命題の真偽を考察することができる。
						主体的に学習に取り組む態度	身近なものを分類することを通して、集合の概念を理解しようとしている。身近な問題を論理的に考察することを通して、背理法の考え方を理解しようとしている。

全課程から問題を選出し、出題する。

令和8年度 年間指導計画

令和8年度 年間指導計画						鹿児島県立高等学校 通信制課程	
教科	数学	科目	数学Ⅱ	履修区分	選択	使用教科書	東京書籍『新数学Ⅱ(717)』 東京書籍『新数学Ⅱ解説編(718)』
添削指導回数	12	面接指導回数	4	単位認定試験履修	1	副教材等	NHK高校講座 教科書DVD

学習の目標

数学的に数式・考え方を動かす、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) いろいろな式、関数と方程式、指数関数、対数関数、三角関数及び積分・微分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したとき、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を調査・説明・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く素数に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導	提出期間に間に合うように提出する。
面接指導	各期に開講する番手を確認し計画的に出席する。 ●複聴票・面接指導の出席を合わせ、①～④の計2時間となるように提出する。 ※複聴票による減免は原則2時間(6割減免)まで。
単位認定試験	添削指導、面接指導(複聴票を含む)を全て修了後に受験。
単位修得(認定)に当たっての基準	
評価方法	各単元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教科書ページ)	添削指導 No.	面接指導		複聴票		単位認定 試験	観点別評価	
		開講番号	開講期	NHK高校講座	教科書DVD		観点	評価規準
P.3~P.11 式の計算	1						知識・技能 3次の乗法公式や因数分解の公式を用いて、計算することができる。 $n!$ の値を求めることができる。分数式の約分ができ、分数式のわり算、かけ算をすることができる。分数式の通分ができ、分数式のたし算、ひき算をすることができる。	
P.12~P.19 2次方程式	2	①	I・Ⅲ期	2.3.7.8	p.4-19		知識・技能 負の数の平方根を1次の項がない2次方程式の解法と関連づけて理解している。複素数の相等を用いて、問題を解くことができる。共役な複素数の性質を用いて、複素数の除法を計算することができる。	
P.20~P.31 高次方程式 式と証明	3						思考・判断・表現 実数の範囲では解けない2次方程式について、2乗して-1になる数を用いて考察することができる。2次方程式の解の種類について、判別式を用いて考察することができる。	
P.33~P.51 座標と直線の方程式	4						主体的に学習に取り組む態度 2次方程式の解の種類について、判別式を用いて考察しようとしている。	
P.52~P.63 円の方程式 軌跡と領域	5	②	I・Ⅲ期	19.20.27.28	p.38-56		知識・技能 多項式において、 $=BQ+R$ の関係が成り立つことを理解し、多項式の除法を計算することができる。剰余の定理を用いて、除法における余りを求めることができる。因数定理について理解し、因数定理を用いて多項式を因数分解することができる。	
P.65~P.77 三角関数	6						思考・判断・表現 多項式の除法について、数の除法と関連付けて考察することができる。	
P.78~P.83 加法定理	7						主体的に学習に取り組む態度 身近な問題を解決することに、高次方程式を活用しようとしている。	
P.85~P.95 指数関数	8	③	Ⅱ期	39.40.45.46	p.66-71 p.78-83		知識・技能 数直線上の2点間の距離を求めることができる。線分の内分・外分の意味を理解している。数直線上の内分点・外分点の座標を求めることができる。	
P.96~P.103 対数関数	9						思考・判断・表現 円と直線の共有点の個数について、2次方程式の判別式の符号から考察することができる。	
P.105~P.115 微分係数と導関数	10						主体的に学習に取り組む態度 身近な問題を解決することに、不等式の表す領域を活用しようとしている。	
P.116~P.123 導関数の応用	11	④	Ⅱ期	57.58.68.79	p.96-99 p.110-113 p.124-127		知識・技能 一般角の動径の位置を求めることができる。三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。	
P.124~P.132 積分	12						思考・判断・表現 一般角の三角関数の相互関係が成り立つことについて、単位円を用いて考察することができる。	
							主体的に学習に取り組む態度 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
							知識・技能 三角関数の加法定理を用いて、三角関数の値を求めることができる。	
							思考・判断・表現 加法定理の逆の考え方をもとにして、三角関数の合成を導くことができる。	
							主体的に学習に取り組む態度 おうぎ形の弧の長さや面積について弧度法を用いて考察することができる。	
							知識・技能 整数へ拡張した指数法則を用いて、計算することができる。	
							思考・判断・表現 指数を0や負の整数まで指数法則が成り立つように拡張することについて考察することができる。	
							主体的に学習に取り組む態度 指数を0や負の整数まで指数法則が成り立つように拡張することについて考察しようとしている。	
							知識・技能 対数の意味を理解し、対数の値を求めることができる。	
							思考・判断・表現 指数関数のグラフを用いて、指数と対数の関係について考察することができる。	
							主体的に学習に取り組む態度 指数関数のグラフを用いて、指数と対数の関係について考察しようとしている。	
							知識・技能 関数の平均変化率を求めることができる。	
							思考・判断・表現 具体的な事象で、時間の幅を小さくしたときの平均の速さの変化について考察することができる。	
							主体的に学習に取り組む態度 具体的な事象で、時間の幅を小さくしたときの平均の速さの変化について考察しようとしている。	
							知識・技能 導関数の符号を利用して、関数の増減を調べることができる。	
							思考・判断・表現 身近な問題を解決することに、関数の最大・最小を活用することができる。	
							主体的に学習に取り組む態度 身近な問題を解決することに、関数の最大・最小を活用しようとしている。	
							知識・技能 不定積分の意味を理解し、不定積分を求めることができる。不定積分の公式を用いて、不定積分や原始関数 $F(x)$ を求めることができる。	
							思考・判断・表現 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を身に付けている。	
							主体的に学習に取り組む態度 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	

令和8年度 年間指導計画

鹿児島県立高等学校 通信制課程

教科	数学	科目	数学Ⅲ	履修区分	選択	使用教科書	東京書籍『数学Ⅲ Standard (202)』
添削指導回数	12	面接指導回数	4	単位認定試験	1	副教材等	教科書DVD

学習の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に論議したり、数学的に考察し、整理したりする技能を身に付けることができる。
 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を関連・明確・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象の動向に基いてその特徴を数学的に考察する力、関数の増減や変位に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って総合的・系統的に考察したりする力をもつ。
 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論議に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、詳細・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導 提出期間に間に合うように提出する。
 添削指導 各期に開講する講義を確実に計画的に出席する。
 面接指導 面接指導・面接指導の出席を合わせ、①～④の計2時間となるように提出する。
 ※授業による選抜は原則2回(6回減免)まで。
 単位認定試験 添削指導・面接指導(視聴覚を含む)を全て修了後に受験。
 単位修得(認定)に当たっての基準
 評価方法(各单元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教科書ページ)	添削指導 No.	面接指導		視聴覚		単位認定 試験	観点別評価	
		開講番号	開講期	録画/高画質講座	教科書DVD		観点	評価規準
P.10～P.23 関数	1						知識・技能 分数関数や無理関数のグラフをかくことができ、グラフの特徴を理解し、分数関数のグラフを利用して、不等式を満たすxの値の範囲を求めることができる。逆関数や合成関数の意味を理解し、関数の逆関数、合成関数を求めることができる。	
P.24～P.35 数列の極限 無限等比数列	2	①	I・Ⅲ期	2.3.7.8	p.10-22 p.24-34		知識・技能 数列の収束、発散と数列の極限の基本的な性質について理解し、数列の極限を求めることができる。はさみうちの原理を利用して、数列の極限を求めることができる。無限等比数列 $\{r^n\}$ の収束する条件を活用して、与えられた数列の収束、発散や極限などを調べることができる。	
P.36～P.44 無限級数	3						知識・技能 無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、無限級数が収束するとき、その和を求めたりすることや、無限等比級数が収束する条件を理解し、その和を求めたりすることができる。図形への応用や循環小数の考察を通して、その理解を深めるとともに、問われたものを求めることができる。	
P.45～P.65 関数の極限	4						知識・技能 指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べることができる。関数の連続性について理解し、関数が連続である区間を求めることができる。	
P.70～P.81 微分法	5	②	I・Ⅲ期	19.20.27.28	p.70-90		知識・技能 導関数の定義にしたがって、基本的な関数の導関数を求めることができる。積・商の微分法を用いて、いろいろな関数の導関数を求めることができる。合成関数の微分法及び逆関数の微分法を用いて、いろいろな関数の導関数を求めることができる。	
P.82～P.93 いろいろな関数の導関数	6						知識・技能 合成関数の微分法や積の微分法を用いて、三角関数を含む関数の導関数を求めることができる。対数関数の微分法を合成関数の微分法を用いて、対数関数の導関数を求めることができる。高次導関数について理解し、第n次導関数を求めることができる。	
P.98～P.107 接線の方程式	7						知識・技能 曲線の接線の方程式及び法線の方程式を求めることができる。媒介変数で表された曲線の接線の方程式を求めることができる。	
P.108～P.120 関数の増減 第2次導関数とグラフ	8	③	Ⅱ期	39.40.45.46	p.98-103 p.121-129		知識・技能 関数の増減を調べたり、関数の値の変化を調べて、極値を求めたりすることができる。これまで学習したことを総合していろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。	
P.121～P.135 微分のいろいろな応用	9						知識・技能 微分法を用いて、関数の最大値・最小値を求めるたり、不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を調べたりすることができる。運動する点の速度・加速度が導関数を用いて表現できることを理解し、その速度・加速度を求めることができる。1次近似式について理解し、関数の近似値を求めることができる。	
P.140～P.154 不定積分	10						知識・技能 不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。置換積分法を利用して、不定積分を求めることができる。部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。三角関数の加法定理から導かれる積を和・差に直す公式を用いて、三角関数の不定積分を求めることができる。	
P.155～P.174 定積分	11	④	Ⅱ期	57.58.60.79	p.140-152 p.155-166 p.175-188		知識・技能 いろいろな関数の定積分の値を計算することができる。置換積分法や部分積分法を用いて、定積分の値を求めることができる。偶関数と奇関数の定積分の性質を理解し、定積分の値を求めることができる。積分と微分の関係を理解し、定積分で表された関数を微分することができる。区分積法の考え方を理解し、和の極限値を求めることができる。	
P.175～P.198 面積・体積・長さ	12						知識・技能 いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。立体の体積が定積分によって求められることを理解し、体積を求めることができる。曲線の長さが定積分によって求められることを理解し、曲線の長さを求めることができる。	

全課程から問題を選出し、出題する。

教科	数学	科目	数学A	履修区分	選択	使用教科書	東京書籍『改訂版 新数学A (002-905)』 東京書籍『改訂版 新数学A 解答編(002-906)』
添削指導回数	6	面接指導回数	2	単位認定試験回数	1	副教材等	教科書DVD

学習の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。
 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導	提出期間に間に合うように提出する。
面接指導	各期に開講する番号を確認し計画的に出席する。 ●視聴票：面接指導の出席と合わせ、①～②の計2時間となるように提出する。 ※視聴票による減免は原則4時間(6割減免)まで。
単位認定試験	添削指導、面接指導(視聴票を含む)を全て修了後に受験。
単位修得(認定)に当たっての基準	
評価方法	各単元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教科書ページ)	添削指導 No.	面接指導				単位認定 試験	観点別評価	
		開講番号	開講期	視聴票			観点	評価規準
				NHK高校講座	教科書DVD			
P. 4-21 場合の数	1	①	I・Ⅲ期	P. 12-13 P. 18-19 P. 22-29	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	集合の表し方や要素の個数の基本的な関係を理解し、表すことができる。和の法則、積の法則を理解し、それらを用いて場合の数を求めることができる。順列、組合せの意味を理解し、総数を求めることができる。	
P. 22-29 確率	2					思考・判断・表現	身近な例に対して積の法則を適用することを通して、順列を総数を求める式を考察することができる。順列や組合せの考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる。	
						主体的に学習に取り組む態度	順列や組合せの考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めようとしている。順列について振り返り、順列と組合せを対比することによって、組合せの総数の求め方を考察しようとしている。	
						知識・技能	確率について理解し、場合の数をもとに事象の確率を求めることができる。確率の加法定理を理解し、排反事象の確率を求めることができる。余事象の意味を理解し、求めることができる。期待値について理解し、いろいろな場合の期待値を求めることができる。	
P. 30-37 確率	3					思考・判断・表現	確率の性質に基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。	
						主体的に学習に取り組む態度	確率の性質を振り返って、事象の起こりやすさを判断しようとしている。	
		知識・技能	確率について理解し、場合の数をもとに事象の確率を求めることができる。独立な試行、反復試行、条件付き確率の意味を理解し、求めることができる。期待値について理解し、いろいろな場合の期待値を求めることができる。					
P. 40-49 平面図形の基礎	4	思考・判断・表現	具体的な事象を基に、条件付き確率や確率の乗法定理を考察することができる。期待値を意思決定に利用することができる。					
		主体的に学習に取り組む態度	具体的な事象を基に、条件付き確率や確率の乗法定理を考察しようとしている。期待値を意思決定に利用しようとしている。					
		知識・技能	平行線と角の関係、多角形の内角、外角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。三角形の合同条件、相似条件を理解し、それらを利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。					
P. 50-57 三角形の性質	5	②	Ⅱ期	P. 52-55 P. 58-65		思考・判断・表現	完成した作図をみて、作図の手順を説明することができる。	
		主体的に学習に取り組む態度				完成した作図をみて、作図の手順を説明しようとしている。		
		知識・技能				三角形と比の性質や中点連結定理を理解し、線分の長さを求めることができる。三角形の重心、外心、内心の性質、角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し、それらを利用して線分の長さや角の大きさを求めることができる。		
P. 58-75 円の性質 空間図形	6	思考・判断・表現	中点連結定理を利用して、線分を3等分する方法を考察することができる。三角形の無い角の二等分線と比の定理を利用して、線分を与えられた比に内分する作図について考察することができる。					
		主体的に学習に取り組む態度	中点連結定理を利用して、線分を3等分する方法を考察することができる。三角形の内角の二等分線と比の定理を利用して、線分を与えられた比に内分する作図について考察しようとしている。					
		知識・技能	円の接線の性質、円周角の定理、円に内接する四角形の性質、方べきの定理を理解し、それらを用いて線分の長さや角の大きさを求めることができる。直線と平面の位置関係理解している。多面体、正多面体を理解している。					
						思考・判断・表現	円に内接する四角形の定理や接線と弦のつくる角の定理を利用して、方べきの定理を考察することができる。2つの円の位置関係を考察することができる。多面体の頂点の数、辺の数、面の数の間にある関係や、見え方について考察することができる。	
						主体的に学習に取り組む態度	円に内接する四角形の定理や接線と弦のつくる角の定理を振り返って、方べきの定理を考察しようとしている。	

教科	数学	科目	数学B	履修区分	選択	使用教科書	東京書籍『数学B Standard (702)』
添削指導回数	6	面接指導回数	2	単位認定試験回数	1	副教材等	教科書DVD

学習の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導	提出期間に間に合うように提出する。
面接指導	各期に開講する番号を確認し計画的に出席する。 ●視聴票：面接指導の出席と合わせ、①～②の計2時間となるように提出する。 ※視聴票による減免は原則4時間(6割減免)まで。
単位認定試験	添削指導、面接指導(視聴票を含む)を全て修了後に受験。
単位修得(認定)に当たっての基準	
評価方法	各単元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教科書ページ)	添削指導 No.	面接指導				単位認定 試験	観点別評価			
		開講番号	開講期	視聴票			観点	評価規準		
				NHK高校講座	教科書DVD					
p.10-26 数列	1	①	I・Ⅲ期		p.10-57	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。		
	思考・判断・表現						事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。			
	主体的に学習に取り組む態度						事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。			
p.27-41 いろいろな数列	2				知識・技能		いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。			
					思考・判断・表現		事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。			
					主体的に学習に取り組む態度		問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
p.42-57 漸化式と数学的帰納法	3						知識・技能	漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。		
							思考・判断・表現	自然数の性質を見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。		
							主体的に学習に取り組む態度	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。		
p.60-81 標本調査 確率分布	4	②	Ⅱ期		p.60-111	知識・技能	標本調査の考え方について理解している。			
	思考・判断・表現					確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。				
	主体的に学習に取り組む態度					事象を統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。				
p.82-91 正規分布	5								知識・技能	確率変数と確率分布について理解している。
									思考・判断・表現	目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測することができる。
									主体的に学習に取り組む態度	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
p.92-111 統計的な推測	6					知識・技能	二項分布と正規分布の性質や特徴について理解している。正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解している。			
						思考・判断・表現	標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。			
						主体的に学習に取り組む態度	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			

教科	数学	科目	数学C	履修区分	選択	使用教科書	東京書籍『数学C Standard (702)』
添削指導回数	6	面接指導回数	2	単位認定試験回数	1	副教材等	教科書DVD

学習の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 (2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導	提出期間に間に合うように提出する。
面接指導	各期に開講する番号を確認し計画的に出席する。 ●視聴票：面接指導の出席と合わせ、①～②の計2時間となるように提出する。 ※視聴票による減免は原則4時間(6割減免)まで。
単位認定試験	添削指導、面接指導(視聴票を含む)を全て修了後に受験。
単位修得(認定)に当たっての基準	
評価方法	各単元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教科書ページ)	添削指導 No.	面接指導				単位認定 試験	観点別評価	
		開講番号	開講期	視聴票			観点	評価規準
				NHK高校講座	教科書DVD			
p. 10-39 平面上のベクトル 位置ベクトル	1	①	I・Ⅲ期	p. 10-31 p. 34-46 p. 48-61	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	有向線分や平面上のベクトルの意味、相等、逆ベクトル、和、差、実数倍、平行について理解している。ベクトルの成分表示について理解し、それを用いてベクトルの大きさを求めたり、ベクトルの演算を行ったり、ベクトルの成分や大きさを求めることができる。	
思考・判断・表現	ベクトルの演算について、実数の演算法則と関連付けてその類似性について考察したり、ベクトルの演算法則が成り立つことを表現したりすることができる。平面上のベクトルの平行や分解について、成分表示を利用して考察したり、その過程を表現したりすることができる。							
主体的に学習に取り組む態度	ベクトルの演算について、実数の演算法則と関連付けてその類似性について考察しようとしたり、ベクトルの演算法則が成り立つことを表現しようとしたりしている。平面上のベクトルの基本ベクトル表示と関連付けて、成分表示されたベクトルの演算とその法則について考察しようとしている。							
知識・技能	ベクトル方程式の概念について理解し、直線のベクトル方程式を求めることができる。空間座標の概念及びその意味や表し方また内積について理解し、空間ベクトルを成分表示で表したり、それを用いて基本的なベクトルの演算を行ったり、空間ベクトルのなす角や大きさを求めることができる。							
思考・判断・表現	ベクトルの基本的な性質を用いて、異なる2点を通る直線のベクトル方程式について考察することができる。平面上の点の位置や存在範囲について表現することができる。平面ベクトルの演算法則と対比して、成分表示された空間ベクトルの演算について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	ベクトルの基本的な性質を用いて、異なる2点を通る直線のベクトル方程式について考察しようとしている。平面ベクトルの演算法則と対比して、成分表示された空間ベクトルの演算について考察しようとしている。							
知識・技能	放物線、楕円、双曲線について、焦点や頂点、準線、漸近線といった図形的な特徴と、それらの方程式の関係について理解している。2次曲線と直線が接する条件や接線の方程式を、2次方程式の判別式を利用して求めることができる。							
思考・判断・表現	軌跡が放物線、楕円、双曲線となる点Pについて、点Pが満たす条件をもとにその軌跡の方程式について考察したり、その過程を表現したりすることができる。2次曲線と直線の共有点の個数や接線について、2次方程式の判別式を利用して考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	軌跡が放物線、楕円、双曲線となる点Pについて、点Pが満たす条件をもとにその軌跡の方程式について考察したり、その過程を表現したりしようとしている。2次曲線と直線の共有点の個数や接線について、2次方程式の判別式を利用して考察しようとしている。							
p. 40-69 ベクトル方程式 空間におけるベクトル	2	②	Ⅱ期	p. 116-130 p. 132-140	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	曲線の媒介変数表示について理解している。また、媒介変数表示された曲線の方程式を求めたり、2次曲線を媒介変数表示したりすることができる。直交座標と極座標の関係について理解している。また、平面上の曲線の極方程式と直交座標の方程式を相互に変換することができる。	
思考・判断・表現	対応表に従って点をプロットしたり、式変形によって媒介変数を消去したりすることで、媒介変数表示された曲線の様子について考察することができる。対応表に従って点をプロットしたり、平面上の曲線とその極方程式を関連付けて考察したりすることができる。							
主体的に学習に取り組む態度	対応表に従って点をプロットしたり、式変形によって媒介変数を消去したりすることで、媒介変数表示された曲線の様子について考察しようとしている。対応表に従って点をプロットしたり、平面上の曲線とその極方程式を関連付けて考察したりしようとしている。							
知識・技能	複素数の実数倍や、和や差の図形的な意味を理解し、複素数の絶対値や複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。複素数の積と商の性質を利用して、極形式で与えられた複素数の積や商を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察し、それらの演算の意味を考察することができる。複素数の積や商を極形式で表したときに成り立つ性質の成り立ちを説明することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察したり、それらの演算の意味を考察したりしようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
p. 74-93 2次曲線	3	②	Ⅱ期	p. 116-130 p. 132-140	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	複素数の実数倍や、和や差の図形的な意味を理解し、複素数の絶対値や複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。複素数の積と商の性質を利用して、極形式で与えられた複素数の積や商を求めることができる。	
思考・判断・表現	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察し、それらの演算の意味を考察することができる。複素数の積や商を極形式で表したときに成り立つ性質の成り立ちを説明することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察したり、それらの演算の意味を考察したりしようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
p. 97-111 媒介変数表示と極座標	4	②	Ⅱ期	p. 116-130 p. 132-140	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	複素数の実数倍や、和や差の図形的な意味を理解し、複素数の絶対値や複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。複素数の積と商の性質を利用して、極形式で与えられた複素数の積や商を求めることができる。	
思考・判断・表現	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察し、それらの演算の意味を考察することができる。複素数の積や商を極形式で表したときに成り立つ性質の成り立ちを説明することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察したり、それらの演算の意味を考察したりしようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
p. 116-131 複素数平面	5	②	Ⅱ期	p. 116-130 p. 132-140	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	複素数の実数倍や、和や差の図形的な意味を理解し、複素数の絶対値や複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。複素数の積と商の性質を利用して、極形式で与えられた複素数の積や商を求めることができる。	
思考・判断・表現	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察し、それらの演算の意味を考察することができる。複素数の積や商を極形式で表したときに成り立つ性質の成り立ちを説明することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察したり、それらの演算の意味を考察したりしようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
p. 132-143 図形への応用	6	②	Ⅱ期	p. 116-130 p. 132-140	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	複素数の実数倍や、和や差の図形的な意味を理解し、複素数の絶対値や複素数平面上の2点間の距離を求めることができる。複素数の積と商の性質を利用して、極形式で与えられた複素数の積や商を求めることができる。	
思考・判断・表現	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察し、それらの演算の意味を考察することができる。複素数の積や商を極形式で表したときに成り立つ性質の成り立ちを説明することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数の和や差を、平面上の点の平行移動と関連付けて考察したり、それらの演算の意味を考察したりしようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							
知識・技能	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさを求めることができ、3点が一直線上にある条件や、2直線が直交する条件について理解している。複素数の絶対値と複素数平面上の2点間の距離の関係を利用して、与えられた等式を満たす複素数全体が描く図形を求めることができる。							
思考・判断・表現	複素数平面上の異なる3点がつくる角の大きさに着目して、それら3点がつくる三角形の形状について考察することができる。複素数の和や積、実数倍の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動、拡大縮小について考察することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	複素数平面上の原点を含む異なる3点がつくる角の大きさについて、複素数の積の図形的な意味を利用して考察しようとしている。複素数の和や積の図形的な意味を利用して、複素数平面上の図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。							

教科	数学	科目	数学入門	履修区分	選択	使用教科書	東京書籍『ラスバ数学』
添削指導回数	6	面接指導回数	2	単位認定試験回数	1	副教材等	NHK高校講座

学習の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 中学校の内容における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、事象と数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
 (2) 事象を数学的に考察し、表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、中学校の内容における数学的な見方や考え方を身に付けている。
 (3) 中学校の内容を復習することで、数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導	提出期間に間に合うように提出する。
面接指導	各期に開講する番号を確認し計画的に出席する。 ●視聴票：面接指導の出席と合わせ、①～②の計2時間となるように提出する。 ※視聴票による減免は原則4時間(6割減免)まで。
単位認定試験	添削指導、面接指導(視聴票を含む)を全て修了後に受験。
単位修得(認定)に当たっての基準	
評価方法	各単元ごとに3観点で評価(A・B・C)し、すべての学習内容修了後に総合的に判断する。

学習内容・計画

単元名(教材ページ)	添削指導 No.	面接指導				単位認定 試験	観点別評価	
		開講番号	開講期	視聴票			観点	評価規準
				NHK高校講座	教科書DVD			
P.1, 2, 4, 7 整数の四則演算(ひっ算含む)	1	①	Ⅰ・Ⅲ期	1, 2, 3, 4, 5 6, 7, 8, 9, 10, 11, 14, 15 5, 16, 19, 20, 25, 26, 31, 34	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	加法及び減法に関して成り立つ性質について理解している。加法及び減法の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできる。また、それらの筆算の仕方について理解している。	
思考・判断・表現	数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。							
主体的に学習に取り組む態度	加法及び減法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。							
P.2, 5, 9, 10 小数・分数の四則演算(ひっ算含む)	2					知識・技能	乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について、乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、理解している。	
思考・判断・表現	乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて、小数を用いた倍の意味などをもとに、乗法及び除法の意味を捉え直している。							
主体的に学習に取り組む態度	学習したことをもとに、小数の乗法及び除法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に考え検討したりしようとしている。							
P.11, 14, 15 分数の四則演算	3	知識・技能	乗数や除数が整数や分数である分数の乗法及び除法の意味について、小数の乗法及び除法の計算の考え方を基にして、理解している。					
思考・判断・表現	分数の乗法及び除法について、数の意味と表現をもとにしたり、乗法及び除法に関して成り立つ性質を用いたりして、計算の仕方を多面的に捉え考えている。							
主体的に学習に取り組む態度	学習したことをもとに、分数の乗法及び除法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に捉え検討したりしようとしている。							
P.3, 6, 8, 12, 13, 16, 17, 29, 30 角度・面積・体積・割合(%・比)・比例式 時間の単位・速さ、道のり、時間の関係・反比例	4	②	Ⅱ期	全課程から問題を選出し、出題する。	知識・技能	立方体や直方体の体積を公式を用いて求めることができる。数量の関係や法則などを簡潔かつ一般的に表すという式の役割について理解している。		
思考・判断・表現	体積の単位や図形を構成する要素に着目し、立方体や直方体の体積の計算による求め方を考えている。簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応の関係を表にまとめ、伴って変わる二つの数量の変化の仕方について考察している。							
主体的に学習に取り組む態度	立方体や直方体の体積についても、単位の大きさを決めると、その幾つ分として数値化できるというよさに気付き、学習したことを基に、立方体や直方体の体積の公式を導きだそうしたり、生活や学習に活用しようとしていたりしている。二つの数量の対応の関係を表にまとめ、伴って変わる二つの数量の変化の仕方について、考察しようとしている。							
P.18, 19, 21, 31, 32 文字式・式の値・平方根の計算	5				知識・技能	正の数と負の数、文字を用いることの必要性和意味を理解している。簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。数量の関係や法則などを式を用いて表したり読み取ったり、目的に応じて簡単な式を変更したりすることができる。		
思考・判断・表現	具体的な数の計算や既習の計算方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	文字を用いた式のよさを実感して粘り強く考え、文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。							
P.20, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28 文字式の計算・1次方程式・連立方程式・文章問題	6	知識・技能	方程式の必要性和意味及び解の意味を理解している。1次方程式、連立方程式を解くことができる。因数分解や解の公式を用いて2次方程式を解くことができる。					
思考・判断・表現	因数分解や平方根の考えを基にして、2次方程式を解く方法を考察し表現することができる。具体的な場面で、1次方程式、連立方程式、2次方程式を活用することができる。							
主体的に学習に取り組む態度	1次方程式、連立方程式、2次方程式のよさを実感して粘り強く考え、学んだことを生活や学習に活かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。							